

No. 22

Apr. 2008

“あ”はすべての原点“そ”は蘇生。
阿蘇は原点に返って復活する場所。

素顔の阿蘇に触れ、
自分自身を探してみませんか。

素顔の**阿蘇**を探す旅。



大陸

ASO Continent



ゆっくりのんびり
阿蘇大陸

地域と訪れる人を結ぶ ASO田園空間博物館

地元の人が「何も無い」と感じるその土地に、実は、数え切れないほどの宝がある。訪問者は、それらに純粹な感動を覚え、その感動は、地元の元氣につながる。そして地元の元氣が、また訪問者を誘う。

その齒車の一端を支えているのが、ASO田園空間博物館だ。

何気ない気遣いが 訪問者の笑顔を誘う

内牧温泉街の西側に位置する小さな山、田子山（たごやま）。ここには、なんと13もの神仏がまつられている。平成19年8月、阿蘇内外から約50名が参加し、これら神仏を巡る「十三神仏の田子山をさるこう！」ツアーが開催された。

田子山の南側から入山すると、まずは伝説にまつわる「男亀石」と「女亀石」のご神

田子山頂上から、内牧温泉街を見下ろす。正面は大観峰。



「波乗観音」の前に立つ大倉さんと比べると、岩の巨大さがわかる。「波乗り」にあやかりたいとお参りに来るサーファーもいるという。



田子山頂上にある(手前より)金毘羅大権現、青面(しょうめん)金剛、尺間権現。

体に出会う。頂上には、金毘羅大権現、青面(しょうめん)金剛、火伏せの神様である尺

間権現が並んでいる。圧巻は、東側中腹にある「波乗観音」と呼ばれる磨崖仏。ツアーをガイドした岩下西雄さんは、幼い頃周辺を遊び場にしていたが、観音様の由来などは一切わからない。それでも、見上げるほどの巨石の中央に彫られた、波に乗ってほほ笑む観音様の姿に感嘆しない参加者はいなかった。そして、今はなくなってしまうというお堂に「落書きして遊びました」という岩下さんの言葉に、みんなが笑つ

た。

「頂上で、折戸地区の伝統芸能である虎舞を披露したり、ゲームもやりました。食事は参加者持参の弁当に加えて、地区の婦人部がおにぎりや漬物を用意。塩気を強めにしたおにぎりを、みなさん喜んでくれましたよ」と語るのは、「田子山(たこやま)絆の森委員会」事務局長、大倉勝弘さんだ。暑い日だから、塩気が強い方がいい。そんな何気ない気遣いが、訪れる人々を感激させる。「ありがとう、また来ます」。そう言う参加者の笑顔が忘れられないと、大倉さんら地区の人々は今年も同様の散策ツアー開催を予定している。

田空の協力あってこそ

「お客さんに来てもらって、見てもらいたいものはたくさんありました。来る人ももてなしたいという気持ちも充分だった。でも、イベントに関してこちらは素人。当初は

どうすればいいか、わかりませんでした」と大倉さん。田子山のある内牧折戸地区の宝や、もてなしの気持ちをどう表せばいいのか。思考錯誤し



地元の“生き字引”岩下西雄さん(左)と、大倉勝弘さん。



阿蘇開拓の神「健甞龍命」が立野を蹴破り、水とともに流された「男亀石」(上)と「女亀石」(右)。手野に帰ろうとしたが田子山で命をついた。「女亀石」は、ふるさと手野を向いている。



「十三神仏の田子山をさるこう！」に参加した約50名は、急な上り坂をものともせず歩いた。頂上ではさわやかな風と絶景、そして心づくしのおにぎりがあった。

ていたところに、ASO田園空間博物館(以下田空)から田子山をさるこうツアー開催の話が持ちかけられた。「それが6月中旬くらい。8月の開催までに、私たちは数え切れないくらい田空へ通い、田空のスタッフも何度もこちらへ来てくれて会議や下見を重

ね、コース設定やイベント内容を煮詰めていきました。そうして開催された田子山のツアーは、歴史ある神仏や地元の心からのもてなしが、参加者に大好評を得た。「このイベントは、田空のサポートがなければ難しかった。田空スタッフは、”お手伝いし

ただけです」と謙虚に言われますけどね」。そう言って、大倉さんは笑った。

催しは、あくまで地域主体

このツアーを含め、田空は平成19年度、14の「阿蘇市をさるこう！」イベントをサポートした。「イベントの主体はあくまでも地域。これらのイベントは、田空が行うわけではないんです。田空の役割はあくまでもお手伝い。それと広報です」。そう語るのは、田空のサテライト委員長、阿部寛樹さんだ。

田空は、阿蘇市全域を「博物館」とみなし、人、もの、くらしなどの阿蘇の宝を再発見、阿蘇の伝統文化、歴史を後世に伝えることをコンセプトにしている。阿蘇駅近くに拠点を置き、通常の「博物館」として展示などはもとより、特産品の販売、各地域のイベントサポートなどさまざまな活動を展開。

裏方として、企画手伝いやイベントの雑用を引き受けることに労は惜しまないと語る阿部さん。「催しは、あくまでも地域住民が主体。来てくれたお客さんに、僕たちが

地区の歴史を説明するより、地区に住んでいる人の思い出話のほうが楽しいんですよ。地元の人が地元の言葉で語りかけることが魅力なんです」。それにはまず、自分の住む地区を知ることが大事だ。散策ツアーには阿蘇地域外からの参加も多いが、地元民の参加もある。地元が地元の学びのために、だ。



ASO 田園空間博物館の前身である「田園空間研究会」が発足したのは平成11年。平成17年4月に任意団体「ASO 田園空間博物館」設立、平成18年8月にNPO法人となって現在に至る。

地元、再発見

地元を知るために、自分の地区の歴史だけを知ればいいというものではない。阿蘇の各地域は、神話や歴史において、切つても切れない深い縁で結ばれているからだ。

平成20年2月24日に行われた、ASO田園空間博物館「サテライト代表者意見交換会」で、約60名の参加者は会議前に田子山を視察。阿蘇市北西に位置する手野地区の山部今朝範さんは、田子山にある「男亀石」と「女亀石」の伝説が、手野地区と深い関わりがあると初めて知った。「他の地区と自分の地区の関わりについて、知識がないと感じました。田空の後押しもありますから、もっと知識を広げ、手野の宝を磨かないといけませんね」

「歴史があふれる元黒川をさるこつ」を開催した、代表の宮本秀雄さんも言う。「最初は、地元の人が地元を知るために始めたことが、お客さ



(上)9月開催の「歴史があふれる元黒川をさるこつ」では、元黒川の歴史スポットを散策。

(下)当日が地元の「彼岸祭り」の日であり、参加者への昼食は直会と同じものが振舞われた。器や箸は、竹を使用した地元住民の手づくり。



(上)11月に開催された「最後の内戦、西南戦争130周年記念激戦地 二重峠散策ツアー」。西南戦争で戦った薩摩軍と官軍にスタッフが扮し、参加者を喜ばせた。

(下)二重峠のツアーで、参加者が歩いた参勤交代道の石畳。石畳は当時のままで、敷設に動員された農民らが彫った文字が残る岩もある。



んを呼びイベントに発展しました。地域が一体となってやれば、お客さんも喜んでリピーターになってくれる。PRなど手の届きにくいところを田空に頼んでいます」

「最後の内戦、西南戦争130周年記念『激戦地 二重峠散策ツアー』を開催した車埴地区の宮本義輝区長は、「今までは、西南の役との関わりも、鉛の玉があちこちに落ちていた」という説明程度で通り過ぎていました。今回、田空との協力で激戦の跡をたくさん発見し、参加者を案内できました。今後も隠れた遺跡を発掘したいと思っています」。

**田空は、
もっともっと働きたい**

平成19年度の取り組みを振り返り、「今まで取り組んできたことが、やっと歩き出した。そんな気持ちです」と語るのは、ASO田園空間博物館の西岡ヤス子理事長だ。



田空で行われた「サテライト代表者意見交換会」。阿蘇市各区長やサテライト代表者が参加し、活発な意見交換が行われた。※サテライト＝田空が守っていきたいと考える阿蘇市の宝(地域資源)

「阿蘇の場合、行政と民間が一緒になつてがんばってきたから、活動が活発になりました。行政だけ、または民だけの取り組みではこま

で来れなかつたでしょう」。時に夜中まで作業をし、試行錯誤を繰り返して、議論を戦わせた。そしてようやく、「ASO 田園空間博物館」の役割が

確立・認識されてきた。「でも、まだまだです。もつと地域から」こんな宝がある。という情報発信をして欲しい。そうすれば、一緒にそれを磨き上げていきます。ツアーは地域外の人に阿蘇の良さを知ってもらうことだけが目的ではない。企画の段階で、アイデアを出すプロセスを地元の人に楽しんでもらい、地元の人に地元を再認識してもらうことが隠れた目的でもあるのだ。そしてその再認識が他の地域に広がり、互いに魅力の発信をしあうようになれば、地域と地域、そして地域と訪れる人はさらに強く深く結ばれる。

平成20年度は、波野の榎木野地区にある「乳の木」周辺のツアーが企画されている。区長の森新一さんは言う。「うちには何もない。こんな土地で何ができるだろう



ASO 田園空間博物館の西岡ヤス子理事長と、阿部寛樹サテライト委員長。親子のように仲良く、同志としてともに働き、時に意見を戦わせ田空を支えている。

と思います。でも、来てくれた人が榎木野を心に焼き付けてくれるように、田空スタッフと一緒に考えていきます」

地元には、地元の宝が見えにくい。「何もない」と思っている地元民に、宝の掘り起しを手助けする。ASO 田園空間博物館が目指すのは、「地元の元気」。都市と農村の交流で「農村が潤うこと」。それが、これからも変わらない、田空普遍のテーマである。

ASO 田園空間博物館がサポートした、平成 19 年度の「阿蘇市をさるこう！」ツアーは 14 件。いずれも、個性豊かなコースばかりだ。阿蘇内外からの参加者たちは、地元の人ガイド付きで阿蘇市の宝を歩いてめぐり、その魅力を再発見した。



波野スズラン祭りと 神楽見学

5月

このツアーでは、初夏のうららかな陽光のもと、参加者たちは道の駅波野「神楽苑」からスズラン公園までを歩いた。途中、かれんなスズランをカメラでパチリ。



坊中地区で阿蘇市の 歴史をさるこう

6月

その昔、36 坊 52 庵の寺院群があった坊中地区でのツアー。火渡り神事などで知られる、長い歴史を持つ西蔵殿寺の本堂で、住職が語る坊中の歴史に耳を傾けた。



荻岳探訪と 神楽無料観賞

7月

波野にある荻岳でのツアー。青空が広がった日、360 度のパノラマを満喫できる荻岳に登ったあと、波野に古くから伝わる神楽も見学した。



参勤交代の宿場町坂梨で 歴史をさるこう

7月

宿場町の面影が残る坂梨地区でのツアー。坂梨は、江戸時代から多くの造り酒屋や旅館などで賑わった。大名や歴史上の人物も往来した通りで説明を聞く。



霜宮神社「火焚き神事乙女入り」 見学ツアー

8月

毎年 8 月、地域より選ばれた 10 歳前後の「火焚き乙女」が 59 日間火を焚き続ける「火焚き神事」を見学するツアー。神事見学後の昼食付き散策も、参加者に大好評だった。



五足の靴 歌碑めぐりの旅

10月

「五足の靴」で有名な与謝野寛（後の鉄幹）らの、阿蘇登山 100 周年を記念して開催されたツアー。参加者は、内牧の文学碑公園や明行寺などの歌碑をめぐった。



阿蘇山上・烏帽子岳、杵島岳 トレッキング

11月

ススキが美しい時期に開催されたトレッキング。参加者らは、草千里ヶ浜駐車場から烏帽子岳と杵島岳に登った。案内人の説明で、阿蘇の火山の仕組みもわかったと好評。



千年の歴史を誇る なべづる線三社参りの旅

12月

田空の会員限定で行われたツアー。西小園八幡宮、西湯浦八幡宮、湯浦八幡宮をめぐり、地元の人が知らない阿蘇がまだまだあることを発見。



十八羅漢浄土寺と 古閑の滝をさるこう

2月

このツアーでは、見事に凍結した古閑の滝を見学後、坂梨地区にある浄土寺を訪問。ひっそりとたたずむ羅漢群を、興味深げに見つめる参加者たち。

阿蘇の恵をおいしく食べよう

散策ツアーで“知られざる阿蘇の宝”を満喫したら、帰りにはぜひ、阿蘇の味を楽しんでください。ASO 田園空間博物館周辺および田子山にある立ち寄り処を紹介します。

素材の肥育・栽培方法や調理法にもこだわり

小次郎洲

焼肉と釜飯の店。店で使用する黒毛和牛は自家繁殖および肥育を行っています。米も自家製で、地鶏や野菜は熊本県内産を使用。食材そのものの良さが生きる調理法も徹底追求した、阿蘇の恵を存分に満喫できる店です。



- 住所：阿蘇市黒川小次郎洲 ●TEL：0967-34-0945
- 営業時間：12時～15時、17時30分～20時30分(オーダーストップ。入店は20時まで)
- 定休日：水曜日および不定休あり

休憩がてら、おいしい漬物をパクリ

つけもの処 健蔵

阿蘇を代表する漬物「阿蘇たかな漬」をはじめとする漬物や健康食品、乾物を製造する工場の敷地内に店舗があります。150年前に立てられた古民家を移築した店舗内部では、漬物の試食もOK。3月から4月にかけては、高菜の新漬けが最も美味しい季節です。



- 住所：阿蘇市黒川278(資)江藤加工食品
- TEL：0967-34-0619
- 営業時間：8時30分～16時30分 ●定休日：なし

あか牛は、繁殖から肥育まで一貫飼育

農家れすとらん 田子山

畜産家のオーナーが、繁殖から肥育までを一貫して手がけたあか牛の肉を堪能できる店。周年放牧されたあか牛は、さっぱりとして牛肉本来の味が凝縮されています。使用する米や野菜も、有機無農薬自家栽培というこだわりふりが人気です。



- 住所：阿蘇市三久保285 ●TEL：0967-32-5070
- 営業時間：12時～19時(15時以降は要予約)
- 定休日：水曜日

古民家風の店で阿蘇の郷土料理を

山賊旅路

高菜めしやだご汁など、阿蘇の郷土料理をはじめ、大きな「山賊むすび」やこだわりの黒豚を使ったホルモン煮込みや焼きホルモンが人気の店。米は阿蘇産有機自家栽培のコシヒカリ、高菜漬けも、自家生産・漬け込みしたものを使用しています。



- 住所：阿蘇市黒川2127 ●TEL：0967-34-2011
- 営業時間：10時～19時30分
- 定休日：水曜日

阿蘇のふもとの甘～いお店

葉心なかむら

阿蘇で育った素材を使い、お餅をマグマに見立てたフォンダンショコラ「中岳ショコラ」や、米粉のかるでらロール、坊中の石畳(写真)など、名前も阿蘇にこだわったスイーツがずらりと並びます。みそ饅頭やどら焼きなど、和菓子も人気です。



- 住所：阿蘇市黒川坊中1490 ●TEL：0967-34-0321
- 営業時間：9時～19時(日曜は17時まで)
- 定休日：なし

